

## 第三者評価結果（児童養護施設）

### 1 養育・支援

(1) 養育・支援の基本	第三者 評価結果
① 子どもの存在そのものを認め、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止め、子どもを理解している。	a
② 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	b
③ 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	a
④ 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
⑤ 秩序ある生活を通して、基本的生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【評価が高い点】</p> <p>○職員は担当の部屋で子どもたちと寝起きを共にしています。そのため子どもに細やかな対応ができています。また共に寝起きをすることから子どもたちと職員がふれあう時間も多く、信頼関係が築かれているように感じました。</p> <p>○就学前の子どもは、日中保育担当の職員を配置し保育にあたっていますが、外遊び等の際には他職員も協力し子どもたちが安全に過ごせるように努めています。</p> <p>【改善が求められる点】</p> <p>◆日中保育について、日々もしくは一年を通しての具体的な計画を文書化や記録に残すことが望まれます。</p> <p>◆施設内のルールについては、入所時や事前見学時に口頭で説明をするだけでなく、文書化し入所の際に配布したり、各部屋に配置するなど、分からないときや何かのときにすぐ読めるように工夫してください。</p>	

(2) 食生活	第三者 評価結果
① 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	b
② 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	a
③ 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	b
(3) 衣生活	
① 衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを提供している。	a
② 子どもの衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
(4) 住生活	
① 居室等施設全体がきれいに整美されている。	a
② 子ども一人一人の居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	a

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

【評価が高い点】

○食堂は、居住部屋ごとや幼児のみ等にテーブルが分かれており、楽しい雰囲気の中で食事をすることができています。また、食堂には常に職員がおりクラブ活動等で遅くなった場合でも子ども一人だけで食事をすることがないように配慮されています。

○衣類については外出時に好みの衣類を購入したり、職員に好みを伝えて購入してきてもらっています。

○子ども3~4人に対して1人の職員が住み込みで生活しており、子どもたちが安心してすごせています。また中高生は二人部屋で生活をしています。

【改善が求められる点】

◆自分が使った食器類は自分で下膳する習慣が身についていると感じられましたが、高年齢の子ども(中高生)については、自立生活を行う支援のひとつとして、使った食器類は自分で洗うことの出来るような支援を試みてはいかがでしょうか。

(5) 健康と安全	第三者 評価結果
① 発達段階に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理ができるよう支援している。	a
② 医療機関と連携して一人一人の子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。	b

(6) 性に関する教育	第三者 評価結果
① 子どもの年齢・発達段階に応じて、異性を尊重し思いやりの心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

【評価が高い点】

○看護師が日々の服薬管理や不調時の対応、医療機関等との連携を図っています。

○幼児については毎朝、午睡後に検温を実施し、健康状態の把握に努めています。また就学期の子どもたちについても担当の職員が日々の健康状態を把握しており、不調の早期発見ができています。

○特別な医療が必要な子どもについては全職員が状態を把握し対応しており、必要に応じて学校へ出向きフォローを行っています。

【改善を求められる点】

◆就学期の子どもたちについても不調をうまく訴えることができない子どもたちについては、日々の健康状態の把握のためにも定期的に検温等を行ってみてはいかがでしょうか。

◆食事前には手洗いや手指消毒が行われていましたが、手を拭くタオルは共用でした。コスト面から考えると厳しい面があるかもしれませんが、感染症の予防、蔓延防止の観点からペーパータオルの導入を検討してください。

(7) 自己領域の確保	第三者 評価結果
① でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	a
② 成長の記録(アルバム)が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	c

(8) 主体性、自律性を尊重した日常生活	第三者 評価結果
① 日常生活のあり方について、子ども自身が自分たちの問題として主体的に考えるよう支援している	a
② 主体的に余暇を過ごすことができるよう支援している。	b
③ 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	b

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

【評価が高い点】

○定期的に年代別の「子ども集会」が開かれ、子どもたちが自由に意見を出せる場があり、施設側もその意見を反映しています。  
○金銭管理については、高校生は小遣いを自己管理していますが、その年齢以下の子どもたちは外出等の折に担当職員と話し合いながら持参する小遣いの額を決め、買い物をしたり、貯金をするなど担当職員と一緒にしています。

【改善が求められる点】

◆アルバムについては、自己評価でもC判定が多くありました。子どもたちのアルバムの整理は各担当の職員の裁量にゆだねられています。職員にも得手不得手がありその結果が自己評価に現れているのではないかと感じました。今後は担当職員だけでなく子どもたちも含めながら職員間で協力しながら行ってはいかがでしょうか。  
◆食事に使う箸、茶碗、コップ類は共用されていると見受けられました。年齢にもよりますが、茶碗、箸、コップは個人所有のものを使用するよう検討してはいかがでしょうか。

(9) 学習・進学支援、進路支援等	第三者 評価結果
① 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
② 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
③ 職場実習や職場体験等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

【評価が高い点】

○学習習慣がつくよう時間を決め、宿題等を行う場を設けています。また、若手職員が五教科を中心に担当制で学習指導を行っています。さらに、受験生については受験対策の勉強を出来る時間を設け学習の支援を行っています。  
○進路については院長をはじめ担当職員が適切なアドバイスをし支援しています。

【改善が求められる点】

◆学習指導に学生等ボランティアの協力を得ることで、職員の負担軽減を図るとともに、それは子どもたちにとっても職員や教師以外の大人と交流する機会を得られることから、積極的に導入を検討してはいかがでしょうか。

(10) 行動上の問題及び問題状況への対応	第三者 評価結果
① 子どもが暴力・不適応行動などの問題行動をとった場合に、行動上の問題及び問題状況に適切に対応している。	a
② 施設内で子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
③ 虐待を受けた子ども等、保護者からの強引な引き取りの可能性のある場合、施設内で安全が確保されるよう努めている。	b

(11) 心理的ケア

① 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
---------------------------------	---

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

【評価が高い点】

○トラブルの発生時には、複数の職員で対応し双方が納得し和解できるよう支援できています。

【改善が求められる点】

◆子どもが人権について職員と話しをする場や人権について学ぶ機会を、ぜひ取り入れて欲しいと思います。

(12) 養育の継続性とアフターケア	第三者 評価結果
① 措置変更又は受入れに当たり継続性に配慮した対応を行っている。	b
② 家庭引き取りに当たって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう家庭復帰後の支援を行っている。	b
③ できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	b
④ 子どもが安定した社会生活を送ることができるよう退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【評価が高い点】</p> <p>○施設を退所した子どもが夏休み等の際には施設へ泊まりに来るなど「里帰り先」として認識され、それを施設も歓迎しています。</p> <p>【改善が求められる点】</p> <p>◆退所した子どもたちについては可能な限り状況の把握に努め、相談や支援を行った場合には記録に残せるよう整備してください。</p>	

## 2 家族への支援

(1) 家族とのつながり	第三者 評価結果
① 児童相談所や家族の住む市町村と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりを行っている。	b
② 子どもと家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを積極的にやっている。	b
(2) 家族に対する支援	
① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【評価が高い点】</p> <p>○家庭支援専門員が定期的に学校便りや子どもの写真を保護者に送り、離れて生活をしていても子どもたちの学校生活や施設での様子を知ることが出来るよう支援しています。</p> <p>○面会のための場所が用意されており、面会時には親子で一緒に過ごせるよう配慮されています。また、施設内に親子で宿泊できる場所はありませんが、将来的には自宅へ戻り一緒に生活出来るため施設へ宿泊を希望する家族もいません。</p> <p>【改善が求められる点】</p> <p>◆子どもたちの施設での生活の様子はもとより、施設についても広く周知するために、地域向け・ご家族むけの広報誌をより積極的に作成してはいかがでしょうか。</p>	

## 3 自立支援計画、記録

(1) アセスメントの実施と自立支援計画の策定	第三者 評価結果
① 子どもの心身の状況や、生活状況を把握するため、手順を定めてアセスメントを行い、子どもの個々の課題を具体的に明示している。	b
② アセスメントに基づいて子ども一人一人の自立支援計画を策定するための体制を確立し、実際に機能させている。	b
③ 自立支援計画について、定期的実施状況の振り返りや評価と計画の見直しを行う手順を施設として定め、実施している。	a
(2) 子どもの養育・支援に関する適切な記録	
① 子ども一人一人の養育・支援の実施状況を適切に記録している。	b
② 子どもや保護者等に関する記録の管理について、規程を定めるなど管理体制を確立し、適切に管理を行っている。	a
③ 子どもや保護者等の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取組を行っている。	b

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

【評価が高い点】

○関係機関との協議や意見を含んだ自立支援計画が定期的に策定されています。次回の評価時期も定められており、子どもや施設(養育支援者)・地域(学校)の総合的な長期目標と短期目標が細かく立てられ、子どもと施設の短期目標については3ヶ月ごとに評価され次の短期目標がたてられています。

○各職員が1冊ずつ持つ職員記録に、担当する一人ひとりの子どもの毎日の様子や支援に関する記録が適切に記載されています。

○子どもや保護者に関する個人情報適切に管理することが規定されており、職員の守秘義務に対する服務規程も明示されています。

○ケース会議は院長と職員全体で行われており、すべての子どもについて全員が周知しています。

【改善が求められる点】

◆計画書策定の責任者は基幹的職員であることが望まれます。計画書策定に関わった職員の記載がないので今後の文書作成において改善を求めます。

◆計画書どおりに養育・支援を行う仕組みが構築されている事を示す文書を作成してください。

#### 4 権利擁護

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者 評価結果
① 子どもを尊重した養育・支援についての基本姿勢を明示し、施設内で共通の理解を持つための取組を行っている。	b
② 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	b
③ 子どもの発達に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	b
④ 子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、職員に周知するための取組を行っている。	a
⑤ 子どもや保護者の思想や信教の自由を保障している。	a

#### (2) 子どもの意向への配慮

① 子どもの意向を把握する具体的な仕組みを整備し、その結果を踏まえて、養育・支援の内容の改善に向けた取組を行っている。	b
② 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組む。	a

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

【評価が高い点】

○子どもの権利ノートは児童相談所から渡されたものを各自が持っています。

○1部屋に子ども3人と1人の住み込み職員が配置され、一般家庭により近い環境(親子・兄弟姉妹の関係)での養育・支援がなされているので、子どもは安心して落ち着いた生活を送ることができています。

○職員が休日の場合は隣の部屋の職員が受け持つなどして、職員の休日が子どもの日常に差支えないように配慮されています。

○子どもの発達の応じて、自身の生い立ちや家族について知らせています。

○真言宗のお寺である明王院が運営しているが、宗教には全く関係なく生活しています。

【改善が求められる点】

◆理念・基本方針が明示されていないので、早期の改善を求めます。

◆子どものプライバシー保護についての規程やマニュアル等を作成されることを望みます。

(3) 入所時の説明等	第三者 評価結果
① 子どもや保護者等に対して、養育・支援の内容を正しく理解できるような工夫を行い、情報の提供を行っている。	b
② 入所時に、施設で定めた様式に基づき養育・支援の内容や施設での約束ごとについて子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b

	③ 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	b
(4)	権利についての説明	
	① 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	b
(5)	子どもが意見や苦情を述べやすい環境	
	① 子どもが相談したり意見を述べたりしたい時に相談方法や相談相手を選択できる環境を整備し、子どもに伝えるための取組を行っている。	b
	② 苦情解決の仕組みを確立し、子どもや保護者等に周知する取組を行うとともに、苦情解決の仕組みを機能させている。	a
	③ 子ども等からの意見や苦情等に対する対応マニュアルを整備し、迅速に対応している。	b
(6)	被措置児童等虐待対応	
	① いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a
	② 子どもに対する暴力、言葉による脅かし等の不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
	③ 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	a
(7)	他者の尊重	
	① 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【特に評価が高い点】</p> <p>○児童相談所で入所の説明が行われているので、施設に来たときは落ち着いており、家族との分離についても多くの場合は普通の生活が送れると知り、安堵感を覚えるため大きな問題はありません。</p> <p>○事前の施設見学は希望があった場合も、突然であった場合も対応しています。</p> <p>○施設の性格上、親と密接に連絡を取り合っている案件は限られるものの、施設、学校、地域での活動を頻繁に知らせています。</p> <p>○子どもからの苦情は、食堂入り口に「苦情箱」が設置されており、自由に苦情を申し出ることができます。子どもからの苦情は話し合いで解決できる程度の内容ですが、1件ずつ丁寧に対応している記録があります。</p> <p>○子ども同士の争いには職員が介入して、別の場所で落ち着かせ、その後子ども同士で仲直りするように援助しています。</p> <p>【改善が求められる点】</p> <p>◆インターネットでホームページを開設するなどして、悲眼院の存在と意義を広く一般に知らせてほしいと思います。</p>		

## 5 事故防止と安全対策

		第三者 評価結果
①	事故、感染症の発生時など緊急時の子どもの安全確保のために、組織として体制を整備し、機能させている。	a
②	災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。	a
③	子どもの安全を脅かす事例を組織として収集し、要因分析と対応策の検討を行い、子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実施している。	a

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

【優れている点】

○「危機管理マニュアル」や「安全管理・事故防止及び非常時対策」を作成して想定される危機ごとに予防策や発生時・発生後の対応策を詳細に指示しています。特に「危機管理マニュアル」は事実確認用チェックリストや対応手順を示したフローチャートを示すなど具体的なマニュアルです。

○施設立地特性に対する対策として、土砂災害や害虫・害獣対策として見回り点検や駆除、通学路の安全確保について常夜灯の整備や維持管理などを行っています。

○小学校・中学校の登下校時には職員1名が同行しています。さらに通学路周辺に「協力事業所」を確保して、体調不良時や夜間帰宅時、荒天時、その他緊急時等に逃げ込めるよう地域と連携した事故防止、安全確保体制を整えています。

○子どもに対しては各寮玄関付近の共用場所に「非常時の行動(子ども向け)」を掲示しているほか、避難訓練は毎月内容(想定危機)を変えて行っています。さらに地域の災害訓練にも参加して地域と連携しながら訓練を行っています。

【改善が求められる点】

◆シュミレーション訓練やロールプレイングなどを行うことでマニュアルの実効性を高める訓練を実施してください。

◆現行対策の対応事例の収集、検証や定期的な見直しを行うことで、よりハイレベルな危機管理を実現することが期待されます。

## 6 関係機関連携・地域支援

(1) 関係機関等の連携		第三者 評価結果
①	施設の役割や機能を達成するために必要となる社会資源を明確にし、児童相談所など関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報を職員間で共有している。	a
②	児童相談所等の関係機関等との連携を適切に行い、定期的な連携の機会を確保し、具体的な取組や事例検討を行っている。	a
③	幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校など子どもが通う学校と連携を密にしている。	a
(2) 地域との交流		
①	子どもと地域との交流を大切にし、交流を広げるための地域への働きかけを行っている。	a
②	施設が有する機能を地域に開放・提供する取組を積極的に行っている。	b
③	ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、受入れについての体制を整備している。	c
(3) 地域支援		
①	地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取組を積極的に行っている。	b
②	地域の福祉ニーズに基づき、施設の機能を活かして地域の子育てを支援する事業や活動を行っている。	b

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

【評価が高い点】

- 児童相談所との連携が図られています。
- 近隣地域の民生委員児童委員による視察が行われています。
- 学校から子どものトラブルの連絡があった場合はすぐに学校へ出向き対応しています。
- 学校行事や地域の行事では施設の役割（割り当て）が組み込んであり、地域との関わりも非常に良好です。

【改善が求められる点】

- ◆悲眼院の持つ児童養護や子育ての様々なノウハウを社会資源として、地域の福祉ニーズに応えられるような活動をされることを期待します。
- ◆地理的特性からボランティア希望者が極めて少ないようですが、施設の地域交流の意味合いからも積極的なボランティアの受け入れが可能な仕組みを構築し、悲眼院の存在と歴史を知ってもらえるようにする事で、地域に社会福祉の芽を育てていくことが出来ると思われま

## 7 職員の資質向上

	第三者 評価結果
① 組織として職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	b
② 職員一人一人について、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	c
③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行い、次の研修計画に反映させている。	b
④ スーパービジョンの体制を確立し、施設全体として職員一人一人の援助技術の向上を支援している。	a

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

【評価が高い点】

- OJTによる職員育成を中心に、年配職員（リーダー的職員）から若手職員への知識、技術の指導を行っています。
- 職場外Off-JT研修にも適宜職員を派遣して専門知識の修得を図り、研修終了後は職員会議等で伝達研修を行っています。
- リーダー的職員はスーパーバイザーも兼ねています。スーパーバイザーによる職員指導（フォロー）は、施設のもつ家族的一体感と相まって職員育成をはじめ、就労上の様々な場面で大きな効果を挙げています。

【改善が求められる点】

- ◆職員育成に関する方針は持っていますが、それを基本方針や育成計画等のかたちに明文化したものはなく、口頭伝達によって周知されています。また、研修体系や研修計画は策定していません。
- ◆職員同士の家族的なつながりを重視し、開設以来今日まで効果的な運営を行っています。悲眼院も既に約30人の職員を有していることからしても、組織的な人材育成体制の確立が求められる時期に至っているのではないのでしょうか。人材育成方針の明文化をはじめ、研修体系の構築と研修計画の策定など研修管理体制の構築を提案します。
- ◆リーダー的職員によるスーパーバイザーは、職員育成に種々の効果を挙げているようですが、現行体制ではリーダー的職員（スーパーバイザー）に過度の負担を強いかねません。職務（責）配分を検討する必要性を生じさせます。

## 8 施設の運営

(1) 運営理念、基本方針の確立と周知	第三者 評価結果
① 法人や施設の運営理念を明文化し、法人と施設の使命や役割が反映されている。	b
② 法人や施設の運営理念に基づき、適切な内容の基本方針が明文化されている。	b
③ 運営理念や基本方針を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a



④ 運営理念や基本方針を子どもや保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	c
(2) 中・長期的なビジョンと計画の策定	
① 施設の運営理念や基本方針の実現に向けた施設の中・長期計画が策定されている。	b
② 各年度の事業計画は、中・長期計画の内容を反映して策定されている。	c
③ 事業計画を、職員等の参画のもとで策定されるとともに、実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている。	c
④ 事業計画を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	b
⑤ 事業計画を子ども等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【評価が高い点】</p> <p>○運営理念は日常業務を通じて施設長→リーダー的職員→各職員へと伝達されています。</p> <p>○各職員間の意思伝達によって理念を共有し、また、事業を遂行しています。それが機能するのは、施設長をリーダー（親）として、職員同士が家族のようにつながり合い、細やかな意思疎通を図っているがゆえにでしょう。タテ・ヨコのつながりを糧に、いわゆる「あ・うん」の呼吸による支援を行っています。</p> <p>【改善が求められる点】</p> <p>◆家族的緊密性が施設外の者から見れば諸々の見えづらさを生じさせている場合があります。例えば、当施設は虚弱児施設として長らく病児養護を行ってきたことから、①職員の「そばにいる見守り」や、②年長者が年少者を「教え、支え、護る」ことを旨とする「タテ割りの養護」を主要な施設理念にもっています。これらは職員間では「あたりまえ」のことであり、いわば暗黙の了解として共有化されているため、改めて「理念」として明示していません。もっとも、外部の者からすれば「どこにも明記されていない」「分からない」こととなり、不透明感を生じさせているのではないのでしょうか。諸理念・方針等を明文化することによって、外部の者や地域社会、職員相互に公表、共有することが必要でしょう。</p> <p>《注記》</p> <p>☆中長期計画は調査時点で策定中であり確定していません。評価基準の「(2) 中・長期的ビジョンと計画の策定」に関する評価が概して低位な理由はそのためです。</p>	

(3) 施設長の責任とリーダーシップ	第三者 評価結果
① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、専門性に裏打ちされた信念と組織内での信頼をもとにリーダーシップを発揮している。	a
② 施設長自ら、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行い、組織全体をリードしている。	a
③ 施設長は、養育・支援の質の向上に意欲を持ち、組織としての取組に十分な指導力を発揮している。	a
④ 施設長は、経営や業務の効率化と改善に向けた取組に十分な指導力を発揮している。	b
(4) 経営状況の把握	
① 施設運営をとりまく環境を的確に把握するための取組を行っている。	b
② 運営状況を分析して課題を発見するとともに、改善に向けた取組を行っている。	b
③ 外部監査（外部の専門家による監査）を実施し、その結果に基づいた運営改善が実施されている。	c

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

【評価が高い点】

○施設長は強いリーダーシップのもとに職員をリードしています。「年長者が年少者を教え、支え、護る」とする施設の理念は、入所児童のみならず職員に対しても向けられています。「ベテランが若手を教え、支え、護る」ことを職員育成の基本としており、まずは施設長自らが範を示すことによって態をもって職員に伝えることを旨としています。  
○職員の意見や現場のニーズの把握は、若手職員→リーダー的職員・スーパーバイザー→施設長の順にボトムアップ的に挙げるようにしています。特にリーダー的職員（スーパーバイザー）を中心に風通しのよい組織体制づくりを心掛けています。

【特に改善が求められる点】

◆多くを口頭伝達によって職員へ周知しています。職員間の家族的関係を基礎としている悲眼院にあっては、あえて文書化する必要性を生じないのかもしれませんが、もはや今日にあっては文書化して周知・指示を図るなど、組織的な組織運営を検討すべき時期に来ているのではないのでしょうか。  
◆リーダー的職員（スーパーバイザー）にかかる負担や責務が重く、当該職員へのサポートや職（責）務分担が課題です。

《注記》

☆評価基準のうち、(4)経営状態の把握③外部監査について当施設は社会福祉法人ではないため、この基準は必ずしも該当するものではありません。よってやむを得ずC評定としています。なお、当然のことながらも所轄行政庁の指導監査は受けています。

(5) 人事管理の体制整備	第三者 評価結果
① 施設が目標とする養育・支援の質を確保するため、必要な人材や人員体制に関する具体的なプランが確立しており、それに基づいた人事管理が実施されている。	b
② 客観的な基準に基づき、定期的な人事考課が行われている。	c
③ 職員の就業状況や意向を定期的に把握し、必要があれば改善に取り組む仕組みが構築されている。	b
④ 職員処遇の充実を図るため、福利厚生や健康を維持するための取組を積極的に行っている。	b

(6) 実習生の受入れ

① 実習生の受入れと育成について、基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、効果的なプログラムを用意する等積極的な取組をしている。	b
---	---

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

【評価が高い点】

○全職員が「同じ目的をもつ」「皆で一緒に行く」ことを旨にヨコのつながりづくりに努力しています。各職種が他の職種への理解を怠ることのないよう、可能な範囲で相互に他職種の業務を経験させるなどの配慮を行っています（例示：児童指導員が調理担当職員に交わり調理を行うなど）。  
○リーダー的職員（スーパーバイザー）による個別サポート体制を軸に「一人で抱え込まない」風通しのよい職員関係づくりに努めています。

【改善が求められる点】

◆施設理念を実現するために住み込み型の小舎制をとっていることから、職員は各寮で入所児童と寝食を共にしながら生活しています。その一方で職員は休日（勤務時間外）であっても多くを施設（寮）内の自室で過ごすことになることから、実質的には勤務／休日の区別をつけづらいのが現状です。メリハリのある生活の確保は職員の労務管理面から必要でしょう。例えば日中保育やシフト制の導入等の検討を提案します。

《注記》

☆実習は現在、保育士養成課程の実習生のみ受け入れています。  
☆福利厚生について、以前は福利厚生センターに加入していましたが、所在地の地理的特性からサービスを利用しづらく利用価値が少ないと判断して現在は退会しています。その代わりに施設独自の福利厚生としてグルメ会や職員旅行などを行っています。

(7) 標準的な実施方法の確立	第三者 評価結果
① 養育・支援について標準的な実施方法を文書化し、職員が共通の認識を持って行っている。	b
② 標準的な実施方法について、定期的に検証し、必要な見直しを施設全体で実施できるよう仕組みを定め、検証・見直しを行っている。	b
(8) 評価と改善の取組	
① 施設運営や養育・支援の内容について、自己評価、第三者評価等、定期的に評価を行う体制を整備し、機能させている。	c
② 評価の結果を分析し、施設として取り組むべき課題を明確にし、改善策や改善実施計画を立て実施している。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p><b>【評価が高い点】</b>          ○スーパーバイザーが指導、管理をすることで養護（技術）の均質化を図っているほか、職員間でケース会議を開催するなどして支援の共有化を行っています。</p> <p><b>【改善が求められる点】</b>          ◆養護方法等についてはリーダー的職員から各職員へ伝達するなどして周知しています。今後は文書化するなどして職員に周知する必要があります。</p> <p>《注記》          ☆評価については、今回の評価受審が初めての評価経験です。よって、改善等への着手は今後の課題であり、また、その他の改善計画等も今回の評価結果を待って検討することになるとのことです。このため、評価基準「8. 評価と改善の取組」の各項目は直接的には該当せず、C評価とします。</p>	